

日本労働年鑑 第56集 1986年版
The Labour Year Book of Japan 1986

第二部 労働運動

XI 労働組合と平和・社会運動

10 水質汚染公害反対闘争

合成洗剤追放第一一回全国集会

「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放第一一回全国集会」は、総評、全水道、自治労、日教組などの労働組合、各地の合成洗剤追放をめざす住民運動グループ、消費者団体などで構成されている「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国連絡会」の主催により、一九八四年一〇月一三、一四の両日、福岡市で開催され、過去最高の五五〇〇人が参加した。

集会は、「全地球の自然といのちを守ろう——流れをかえる文化を求めて」をスローガンとした。第一日目の全体集会では、奥田福岡県知事、ゲーミット・シン・マレーシア環境保護協会会長らの来賓あいさつ、斎藤全国連絡会事務局長の基調報告などがおこなわれた。第二日目の分科会では、「合成洗剤問題入門——なぜ石けんか」「給食現場からの追放と教育実践」「上・下水道問題と合成洗剤」「追放運動をどう進めるか」など七分科会に分かれて討論をおこなった。最後の総括集会では、厚生大臣や日本石鹼洗剤工業会などへの要請書とつぎのような集会アピールを採択した。

【集会アピール(抜すい)】

いま、私たちをとりまく社会と自然の環境は危機に瀕しています。
人間が人間自身の智恵によって生み出した文明は、自然を破壊し、いまや地球を荒廃に追い込もうとしています。

私たちは、人間が自然との共存によってしか生きる道のないことを自覚し、二〇年に及ぶこの運動の歴史の中で、広範な草の根住民運動、民主団体、消費者運動、労働組合、協同組合等の連帯が作り出され、全国連絡会に結集して一〇年の運動を展開してきました。(中略)

私たちは、安全性を無視し、「豊かさ」と「便利さ」を売りものにする企業のあくなき利潤追求の本質を見ぬき、自らの意識の変革と成長をはかりつつ、社会的な改革を目指さなければなりません。(中略)

今日の全国集会の成果と一〇年の運動の総括とを跳躍台として、私たちの運動を更に、さらに発展させましょう。

大詰めを迎えた琵琶湖工事差し止め訴訟

「琵琶湖・淀川汚染に反対する大阪府民連絡会議」の住民ら一一八六人が、一九七六年三月に、滋賀県、水資源開発公団、国、大阪府を被告として、大津地裁に提起した琵琶湖総合開発計画工事差し止め請求訴訟は、八五年二月から、原告申請の証人尋問に入り、大詰めを迎えた。

琵琶湖総合開発計画は、一九七二年一二月に内閣総理大臣により決定されたものであり、下流

からの利水の要求にこたえるために琵琶湖の周囲を湖岸堤で固めそのうえに道路を通すなど、琵琶湖をひとつの巨大な人工のダムにしようという構想である。しかし、琵琶湖とそこから流れ出る淀川の水を日常生活用水として使用している原告ら下流住民にとっては、開発計画にもとづく工事により河川が汚染されるという被害が予測されたため、汚染を防ぎ、環境を保全することを求めて、開発工事の反対運動が広がった。訴訟では、開発工事が琵琶湖の水質にいかなる影響を及ぼすかが審理の焦点となってきた。

日本労働年鑑 第56集 1986年版

発行 1985年12月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1986年版(第56集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
